

1973—1988

【昭和48年～昭和63年】

豊かな暮らしへ 伸び行く平塚

住みよいまちを目指し、飛躍する平塚市

経済の発展とともに豊かになるわたしたちの暮らし。

昭和52年(1977年)には人口が20万人を超え、
中核都市として社会的設備が整ったまちへと成長します。
新しい時代の風を受けながら、その歩みは続きます。

1973年 DATA

●人口180,811人 ●世帯数49,329世帯 ●面積67.88km² ●人口密度2,664人/km²

〔10月1日現在〕

city
hiratsuka
kanagawa
70th
Anniversary

駅ビルがオープン◎昭和48年(1973年)、6階建ての平塚駅ビル「ラスカ」が完成し、この地域の近代的な玄関口にふさわしい容姿を整えました。国鉄事業による駅ビルの設置は平塚が初めてで、最新の施設を誇るビルとなりました。当時は、住民票の写しなどがとれる市役所の駅ビル連絡所もありました。
〈平塚ステーションビルラスカ蔵〉



うるおいあるまちを
目指して

高度経済成長期を経て社会全体が活気を帯び、生活にもゆとりが生まれてきます。昭和四十年代から五十年代にかけて、県営団地や市営団地をはじめとする、大規模な集合住宅が多く建てられ、住宅地帯では人口増加による学校の「マンモス化」が叫ばれるようになりました。これに伴い小・中学校、保育園や幼稚園がつくられ、「暮らし」を重視した施設の充実も図られます。また、市民病院の増床や地域医療管理センターの開設など、健康を支える施設も整備されました。

人々が快適な暮らしを求め始めたこのころ、図書館や博物館が建てられ、まちに様々な表情が生まれてきました。そうした中、昭和五十六年(一九八一年)、平塚市は市制誕生から五十年を迎えました。これを記念してまちに愛着を持ってもらおうと、市民の木「くすのき」や市民の花「なでしこ」、平塚八景を選定し、平塚市誕生五十年を祝いました。そして、昭和六十年(一九八五年)に完成した平塚球場などのスポーツ施設が集まった総合公園をはじめとして、市民の憩いの場所が増えていきました。社会や経済は、人口の高齢化、先端技術化、価値観の多様化などで変化していきました。情報と人の流れがまちに活力を吹き込み、平塚の発展を支えていきます。

●平塚市の主な出来事【1973～1988】



平塚大橋開通○昭和49年(1974年)3月、八幡神社土屋線の金目川と渋田川の合流地点に、平塚大橋ができました。交通量が緩和され生活の便も良くなりました。



友好都市提携始まる○市制施行50周年を迎えた昭和57年(1982年)、岐阜県高山市と友好都市提携をしました。同年、静岡県の天城湯ヶ島町、岩手県花巻市(昭和59年に友好都市)と市民休養の郷の調印をしました。



湘南スターモールが完成
○買い物公園「湘南スターモール」は、昭和62年(1987年)3月にできました。東海道五十三次をイメージしたアーケードや街路灯、遊具、街路樹などが買い物を楽しませてくれます。

- 昭和48年(1973年) 駅ビル「ラスカ」がオープン
- 昭和49年(1974年) 平塚大橋が開通。第1回緑化まつり開催。粗大ごみ破碎処理場が完成
- 昭和50年(1975年) 福祉会館が落成。市営錦町駐車場がオープン
- 昭和51年(1976年) 博物館が開館。開設26周年記念競輪で売り上げ新記録
- 昭和52年(1977年) 高村団地が完成し、入居者を募集。人口が20万人を突破
- 昭和53年(1978年) NHK平塚TV局が開局
- 昭和54年(1979年) 金目観音堂が神奈川県重要文化財に指定される
- 昭和55年(1980年) 教育会館、勤労会館が開館。開設30周年記念競輪開催
- 昭和56年(1981年) びわ青少年の家が完成
- 昭和57年(1982年) 中央公民館が開館。岐阜県高山市と友好都市提携
- 昭和58年(1983年) 河野謙三さんが名誉市民に
- 昭和59年(1984年) 岩手県花巻市と友好都市提携
- 昭和60年(1985年) 平塚球場が完成。平塚駅が開駅100年
- 昭和61年(1986年) 新湘南大橋が開通
- 昭和62年(1987年) 平塚競技場が完成
- 昭和63年(1988年) MNビルにひらつかスカイプラザがオープン



第1回緑化まつり○緑と花の祭典として、昭和49年(1974年)4月27日から3日間、八幡山公園で第1回緑化まつりが開かれました。今では会場を総合公園に移し、春の一大イベントになっています。



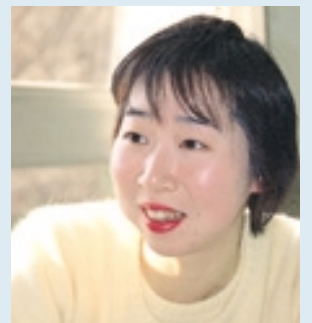
高村団地入居始まる○市内最大のマンモス団地である高村団地が、昭和52年(1977年)に完成しました。大型団地などの建設により、人口が増加し、次々と新しい小・中学校が開校しました。

「博物館や美術館などでの芸術鑑賞が楽しみ」

子どものころは、缶けり、ゴムだん、ローラースケートなど、学校が終わると近所の子もたちと外で走り回っていましたね。ベビーブーム世代なので、近所に大勢の子もがいて、学年や性別などの区別なく、みんなで遊んでいました。当時は学習塾に通う人も少なく、動物を飼ったり、田んぼや畑で遊んだり、のびのびとした子ども時代を過ごしました。家のすぐそばは花水川が流れています。小学校4年生のころに、友だちと川を歩いて渡ったのは、わたしの小さな冒険です。いつも眺めている川を「渡った」という達成感が忘れられません。今の子どもたちと違うのは、戸外の遊びが多いこと。テレビゲームの出現が、世代による遊びの種類を変えた気が

がしますね。平塚で好きなところは、文化的な施設が充実しているところです。博物館、美術館などにはよく足を運びます。美術や音楽といった芸術、歴史、科学など、様々な分野の情報を身近な場所から得られるのは、本当に恵まれていますね。遠くに行かなくても十分楽しめますよ。

最近では、大型店舗や施設などが建てられ、生活も便利になりました。住宅や店が増えたことで、以前遊んでいた田んぼや畑が姿を消していくなど、失われていくものも多い気がします。産業が発展し、まちが活性化することも大切ですが、今ある自然とか環境とかを守るのもわたしたちの役割です。平塚ならではの特色を大切にしていきたいですね。



1973年生まれ
今井千鶴子さんの
ひらつか話